

令和元年8月10日号 (第199回)

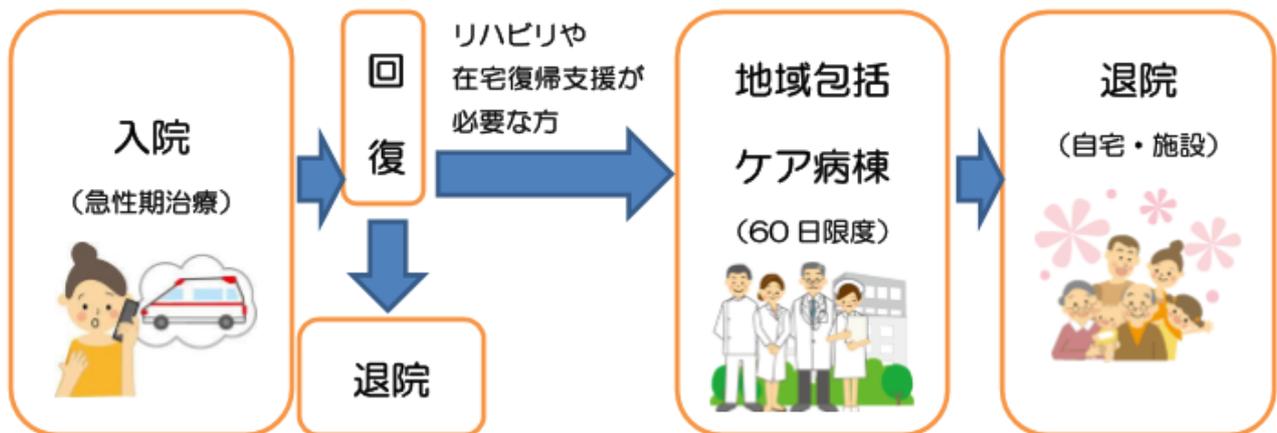
阿伎留通信

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

今回の阿伎留通信は、「4階西病棟のご紹介」をテーマに、4階西病棟の薬袋 知子 看護師長よりお話しさせていただきます。

当院では、地域の皆様が安心して生活していただけるよう、「地域包括ケア病棟」を平成28年7月、4階西病棟に開設いたしました。

「地域包括ケア病棟」とは、急性期病床での治療が終了した後、すぐに在宅や施設へ移行するには不安のある患者さんに対して、しばらくの間入院療養を継続し、在宅復帰に向けての準備を整えるための病棟です。



当病棟は、ご自宅等への退院準備をしっかりと整え、安心して地域へお戻りいただけるよう支援することを目的としています。患者さんやご家族の思い、生活背景や家族関係を理解し、日常生活動作の確認や継続する医療処置の指導に重点をおき看護しています。また、退院後の安全な医療処置継続のため、訪問看護師等と同行し「退院後訪問」を実施してい

ます。主治医をはじめ看護師、リハビリテーションスタッフ、MSW（医療ソーシャルワーカー）、地域のケアマネージャー、訪問看護師、開業医の先生方等多職種と連携を図り、患者さんの在宅復帰に向けた準備、相談をしています。



また、自宅で医療処置をしている患者さんのレスパイト入院もお受けしています。レスパイトとは「休憩」の意味をもつ英語であり、家族の事情（傷病・精神的疲労・出産・出張・旅行・冠婚葬祭など）により、在宅での介護が一時困難になった場合、一時的にケアの代替を行うサービスです。その入院期間は1週間程度となっており、自宅へ戻ることが条件となります。

介護サービスにおける「ショートステイ」と混同してしまいそうですが、異なる点は医療処置（喀痰吸引、褥瘡処置、胃瘻等経管栄養、静脈栄養、麻薬管理等）や難病があり、医療設備や医療者が整っていない施設では受け入れが困難な方を対象として、介護保険ではなく医療保険を利用することです。

患者支援同様に、毎日介護をするご家族の支援も大切です。レスパイト入院のお申し込み、またはご相談については、当院の地域医療連携センターまでお問い合わせください。

なお、レスパイト入院は空きベッドを利用して行いますので、ご希望に添えない場合があることをご了承ください。

スタッフ一同、患者さんが住み慣れた地域で、自分らしく生活できるよう退院支援力を強化していきます。急性期病床での治療が落ち着いた頃に、転棟のご説明をしております。ご理解いただけますようお願いいたします。



阿伎留通信については、バックナンバーを公立阿伎留医療センターのホームページで御覧になることができます。ホームページアドレス(<http://www.akiru-med.jp>)